公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	福知山市児童発達支援センターすきっぷ		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2024年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	満足度の項目はいずれも高評価をいただいております。安心して・楽しみにご利用いただける場所になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大遊具を活用し、心と身体を使った体験を通して成長(発達)を支援している。 ・プログラムが固定化しないよう週替わりで計画をし、その時々流行等も取り入れながら計画している。 ・個別のニーズに応じた活動や集団でのやりとりをねらいとした活動といったように、様々なねらいを持って活動を設定している。 ・しっかりと心と身体を動かして発散をしたり、活動の中で難易度の設定や調整を行ったりすることで、満足感や達成感のある活動となるよう設定している。 ・高い専門性を持って支援できるよう職員の資質向上に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様や関係機関の皆様と情報交換や情報共有を行いながら、一人ひとりに対して丁寧にアセスメントを行い、オンリーワンの支援を目指す。 ・事業所職員間で活発にコミュニケーションを図りながら、チームで療育に取り組む。 ・子ども主体の活動を展開する中で、『やってみよう』というさらなる意欲を引き出し続けるよう取り組んでいく。 ・活動によって人数や活動場所を調整する等の工夫をしたり、職員間でアイデアを出し合ったりしながら、より充実した活動の時間となるよう取り組んでいく。
2	保育士だけでなく、作業療法士や言語聴覚士を配置しており、より専門性の高い支援を提供することや、ご家族様からのご相談やニーズに対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な職種の職員と意見交換を行いながら、一人ひとりへの支援を検討、実施している。 ・言語面や運動面等、それぞれに焦点を当てたプログラムを提供している。 ・高い専門性を持って支援できるよう職員の資質向上に努めている。 ・一人ひとりの特性やニーズを組み込んだ具体的な支援計画を作成し、職員間で共有しながら支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修を実施し、外部研修等にも積極的に参加し、職員の資質向上に努める。 ・事業所職員間で活発にコミュニケーションを図り、意見交換を行ったり、アイデアを出し合ったりしながら、チームで療育に取り組む。 ・少人数のグループ分けや職員体制の見直し等を行うことで、個別のニーズに応じた活動を継続して取り入れていく。
3	日々のやりとりの中で保護者様と活発にコミュニケーションをとり、家族支援にも意欲的に取り組んでいる。また、学校の先生でもない・家族でもない、療育の専門家(第三者)として、保護者様や学校等の関係機関と連携をとりながら直接的・間接的な支援を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の際に活動等の様子や職員の支援について丁寧に伝えるよう取り組んでいる。 ・保護者様から気軽にご相談いただけるよう、関係作りに取り組んでいる。 ・在籍校等の関係機関とも連携を行い、包括的な支援が行えるよう取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して保護者様とのやりとりを大切に積み重ね、充実した家族支援となるよう取り組んでいく。 ・事業所職員間で活発にコミュニケーションを図りながら、チームで療育に取り組む。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	リスクマネジメントについて	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大遊具を活用してダイナミックに全身を使った体験を提供している分、怪我等のリスクは高い。 ・活動場所を区切る等して構造化している分、活動中の職員間のコミュニケーションが取りにくいというデメリットもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備や遊具の点検を継続して確実に実施していく。 ・リスクの予防やリスクを察知する視点について事業所内で勉強会を実施する等継続的に取り組んでいくと共に、職員の資質向上に努める。 ・職種や担当に関係なく、事業所職員間で活発にコミュニケーションを図りながら取り組んでいく。 ・療育活動だけでなく、非常時の対応等事業所(法人)として取り組んでいる内容についても保護者様に向けて見える化していく。

2	<p>コミュニケーションについて (保護者様・関係機関・事業所職員間)</p>	<p>・お子さんや保護者様の多様なニーズ、多岐にわたる業務等に対応できるよう努めているが、資源（人、物、時間）には限りがある。それらに 대응していくためにはコミュニケーションの充実が必須であると考え。</p>	<p>・保護者様とは継続して送迎時や面談等でやりとりを行うと共に、文章や電話でのやりとり等も積極的に取り入れる等してより充実させていく。</p> <p>・連絡帳の活用、降園時の職員体制について検討を行い、抜けや漏れのないように取り組んでいく。</p> <p>・今後も継続して業務体制や業務内容の見直しを行うことで、職員間のコミュニケーションや一人ひとりのケースに向き合う時間を確保していく。</p>
---	---	--	---